

「作り手として、 私らしく」

高木農園 高木 智美



農業女子プロジェクト×foodtextile（フードテキスタイル）着る野菜を楽しもう！

◆ 収穫を振り返って

一〇月二六日。無事に今年の収穫が全てを終えた高木農園です。

今年には宮崎県の農業女子「児玉あさみ」さんが北海道農業の体験をしたいという事で、九月下旬に遠く九州からこの北海道京極町へ一週間、農園でのファームステイ。

あさみさんはマンゴーのみの農作物でいつもハウスの施設栽培がメインで大型の収穫機械に乗るのは初めて。なのにやはり農家の嫁さん、農業女子だからでしょう。働きはこちらの動きをよく見て次の作業を考えた動きに本当に家族一同感心しました。あさみ！ありがとう！愛してる♡

力強い協力もあった今年の収穫。誰も怪我をする事なく無事に終えた事に安堵と感謝です。

高木 智美 (たかぎ ともみ) さん

- ・昭和53年生まれ 後志管内京極町出身
- ・家族構成は夫と夫の両親、子供2人の6人家族
- ・平成12年実家で就農、平成18年結婚、平成20年両親から経営移譲を受ける
- ・羊蹄山麓の京極町で畑作中心に32haの経営
- ・北海道若手女性農業者団体「LINKS」、農業女子プロジェクトなどに参加
- ・平成28年から個人で栽培、販売している白小豆が商品化。「白小豆どら焼き」として、まずは地元で愛される商品になるように、コンセプトは「地恵地楽：ちけいちらく（地元の恵みを地元で楽しむ）です！



◆ 規格外ニンジンTシャツ販売

「春」の号から少しずつ進捗を書いていた「規格外ニンジンの染物」はついにTシャツとなり、クラウドファンディングにて支援+商品の価格で販売開始となりました。

農業女子プロジェクト×foodtextile（豊島株式会社）、このコラボ商品は全国から規格外・廃棄野菜を提供できるメンバーを募り、ニンジン、カボチャ、ナス、ミニトマト、ネギの五色を展開。

一〇月二六日からクラウドファンディング開始。

<https://www.makuake.com/project/vegeco/>

「vegeco（ベジコ）」というブランド名になり支援金を募っています。

一月に終了し、四月に支援していただいた

方にはお渡し致します。

まずは商品として販売開始しましたが、まだまだ問題があり、十二月五日に東京神田にて野菜提供者の五人、豊島株式会社、農水省のプロジェクト担当者が顔を合わせ、今までお互いが譲り合ってなかなか口に出せない事をしっかり伝え、意志の方向・情報共有をしました。開発の会議は何度か参加しましたが、最初の顔合わせや自己紹介など、本当に大切だと……今更ながら再確認しました。

この原稿を書いている現在はクラウドファンディングも残り一カ月を切ります。猛チャージをかけて、盛り返していくしありません。

◆ 白小豆な話

◇ はじまり

私個人で播種から収穫まで自分で考えて生産している白小豆のお話をします。以前から個人で販売できる農産物を生産したいと考え、畑作に合った農産物を探していました。そこで出逢った白小豆。

羊蹄山麓は豪雪地帯なので、雪に模した白小豆は加工業者や製造業者と結びつきやすいという安易な考えでした。

北海道の白小豆の品種は「きたほたる」といいます。地温に左右され、通常の小豆より病気に弱く、小豆より少し小さめで収量も劣るため生産者がいないのが現状で、希少価値があるといわれています。



2年目までは唐竿で脱穀していました。先代達の大変さが身に染みました。

二〇一五年から生産を始めました。最初の作付けは三畝(約三〇〇m)という小さな面積。私が自分で考えて畑を作るのには丁度いい面積でした。

土づくりから施肥設計、農薬チヨイス。豆プランターでの播種作業は畝切りの練習に。初年度の収穫は昔ながらの鎌で刈り取り、島立て、二才積み、天候を見て乾燥した日に唐竿で脱穀、唐箕を掛けゴミを取り除き、冬の農閑期に手選別。白小豆は選別作業が一番の問題です。赤い小豆より汚れが目立ちます。機械である程度選別した後も最終チェックは人の目と手。

この手間が続くうちは、白小豆の生産を簡単には増反できないと思われる。

◇ 京極産「白小豆どら焼き」

当初の目標は白小豆の商品化でした。願わくば全量白小豆を使った商品を…。
俱知安町の「お菓子のふじい」の女性経営者、藤井千晶さんは一〇年以上前からの付き合い。いつか農産物をお菓子に使ってくれたらいいなあと軽い気持ちで

白小豆を卸しました。

翌二〇一六年に「白小豆を使った和菓子ができたよ」と突然の連絡が。全量白小豆のみで作られた粒あんのどら焼きで、その名も「白小豆どら焼き」。価格は一つ税込み三〇〇円。最初は高いと思いました。が、「農産物の価値を売り手が伝える」といつ千晶さんの言葉に信頼を置き販売開始。パッケージの帯には

「京極産・白小豆・高木農園」の文字が！初商品で冠商品（笑）。本当にいい



白小豆餡に似た風合いののパッケージは「お菓子のふじい」さんで販売中です！

のかなあという気持ちと町民に愛される商品になるといいなあと思いました。

「地恵地楽」、地元のお恵みを地元で楽しむを「コンセプト」に町内のイベントにも販売。新聞掲載効果もあり、二〇一七年十一月で一年が経ち、売り上げは予想以上で二、一〇〇個売れました。

◇産地名

産地名や農園名が入るという事はどれだけありがたい事だったのか、後になって分かりました。

北海道は「十勝」というネームバリューが全国に知れ渡り、豆類などは信頼されて買い取りされています。ただ、あまりにも「十勝産」が強大になり、他の産地で生産されても「十勝産」という名前に変わって取り引きされているのは珍しいことではないです。

京極町も特産品は「じゃがいも」で

あって、白小豆ではありません（笑）。

そんな産地名の話を周りから聞かされ、「京極産」が帯に記載された事のありがたみを感じました。実際、京極町に住んでいる方から「京極産のお土産を故郷へ持って帰ることができるようになったよ。ありがとつ。」と言われて・・・嬉し涙。

◇老舗和菓子屋さん

道南農業試験場、場長の加藤淳先生の紹介で道南の老舗和菓子屋さんへ、選別した今年の白小豆三〇kgを持って訪れたのは十一月半ば。社長、専務、製造部長の三人に並べられた時には、「物怖じしないよね」とよく言われる私もドキドキしました。

白小豆がどんな小豆なのか。加藤先生に説明を全てお任せしまして・・・私が話をより長年研究してきた方の説得力の強さは偉大なあと。私が伝えたの

は……白小豆を作って楽しいって書くらいでしょうか(笑)

多くは書けませんが、まずは四月の商品化に向けて、私が白小豆の手選別を三俵！頑張ります！

◇ 高木家の白小豆の

ゴールはどこか？

十一月下旬、地域農業研究所のモニター会議がありました。私は昨年からモニターとなり参加しております。各地域の農業の話が聞くことができますし、先輩農業者からアドバイスも頂けるので有意義な時間を過ごせます。

新篠津村の大塚ファーム、大塚早苗さんには色々と相談に乗って頂きました。早苗さんからは「白小豆、どこかでゴールを決めておかないと家族が疲れちゃうんじゃないかな」と言われました。うっ……その通りです。この手間をかけ過ぎ

な白小豆はどこをゴールラインにしておくか。もつかなり家族を巻き込んでます。作付計画の図面には白小豆もしっかり書き込まれてます。農閑期にしっかり家族で話し合いをするしかないですね。

◆ 作り手として、私らしく

農業に携わるようになった始めの頃。

私は一人の農業者として経営者として接してもらえるには？と考え、男性農業者と同じようにトラクターの作業機の付け替えを一人でやり始め、大特や建設系の免許を取ったり、土壌医・フードマイスター、GPSの取り付けをしてみたり……興味のある事はやってみました。何かを極めたくてやってる訳ではなく、男性農業者の目線に寄り添えたら、私の強みになるのではないかと。

女性は作物の近くで作業することが多く、植物が生育する姿が可愛く感じます。

異変も見逃さずそれを伝える重要な役割があります。

男性は畑全体を見渡した収穫までのイメージを持って農作業を進めていると感じました。農業経営全体を見渡した目線といえるでしょう。

私自身もトラクターに乗ることで、旦那さんの考えを読み取るようになった気がします。なぜ播種作業の時にスタートの位置を気にして何度も切り返すんだろう？些細な事も管理や収穫に影響すると分かる、イラつきもなくなりました。そのうち、大型農業機械を使用できる担い手の一人として任せてもらえるようになりました。

私たち夫婦間では農業資材の採用の最終決定権は旦那さんです。「こんな農業資材を使ってみたい」と進言しても簡単には使ってもらえません。効果とコスト

を算出し、起案書として提出後、「採用」「不採用」が言い渡されます。今まで五つぐらい起案しましたが採用された資材は一つ。シビアです。シビアですが、信頼されて一緒に農業経営をしている自信にも繋がっています。また、楽しんで農業をやっている私があります。それが私らしいです。

北海道の色んな地域では様々な農業が営まれています。女性の活躍が聞こえてくるのは嬉しいですね。そんな女性達と同じく私も担い手の一人だけではなく、農業経営者として栽培、生産、営業、販売へ自信を持って歩んでいく。そしてこれからも、作り手としてこの京極町で、私らしく楽しんで、一意専心やっていきます！

最後に……

拙い文章でも、ありのまま載せて頂き、編集担当の皆さまには感謝しております。文字で「伝える」という貴重な機会を頂けたことにも感謝です。

次は誰にバトンタッチか楽しみにしております。

次の方へ「楽しんで頑張ってくださいー！」

春夏秋冬、本当にありがとうございました！

ああー！終わったー！感無量！



感謝を込めて♡の男爵イモです。
本当にありがとうございました！
これからも頑張ります！